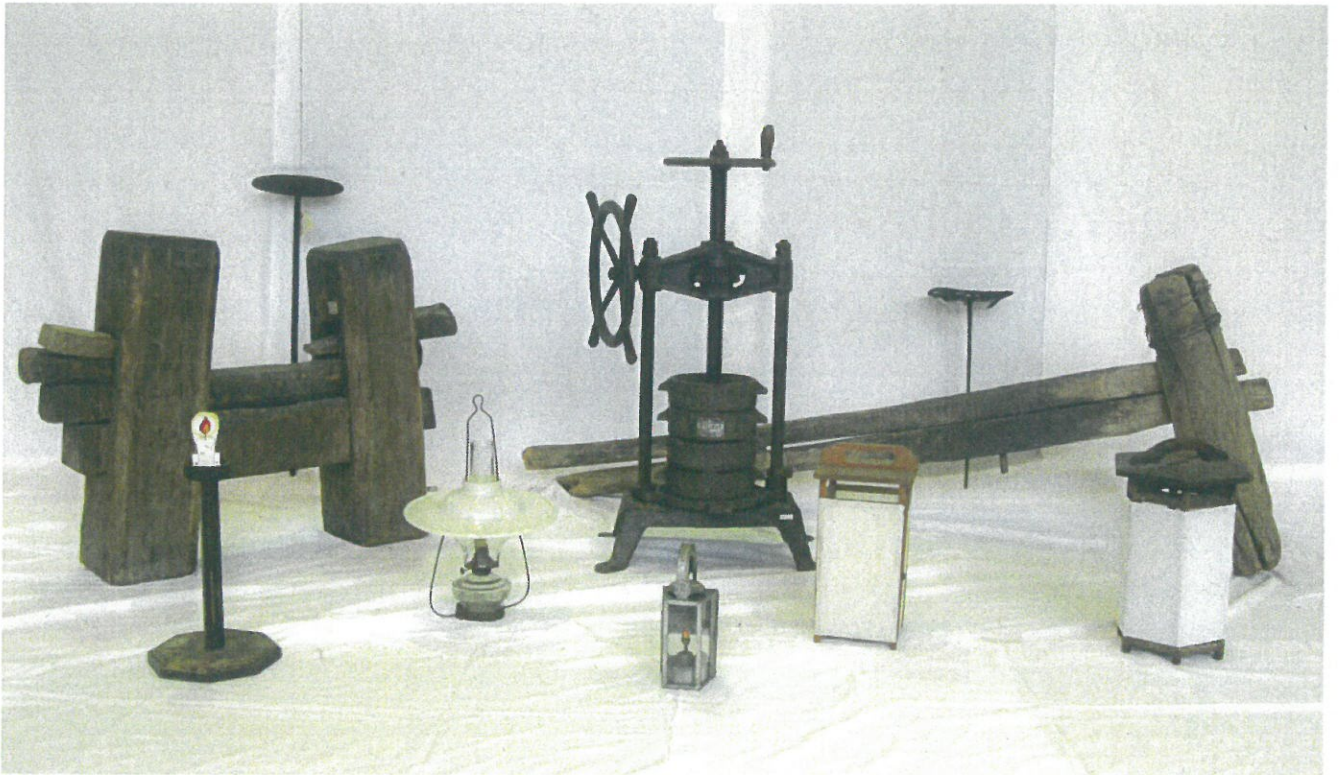


第78回企画展

しばって採った油と蠟(ろう)



平成30年10月10日(水)～12月27日(木)

岩手県立農業ふれあい公園 農業科学博物館

むかしの岩手では、灯りや食用の油を採る油料作物として、ナタネ、エゴマ、ゴマが栽培されており、特にナタネは県南部を中心に広く栽培され、春は野菜として食し、油の搾り粕は肥料として使われていました。

一方、山間高冷地における油料作物は、江戸時代後期の軽米町周辺の畑作について記された軽邑耕作鈔(けいゆうこうさくしょう)に、エゴマの栽培方法が記述されていることから、エゴマが中心であったと思われます。

昭和中期以降、栽培された油料作物から自家用油を搾る際は、専門の業者に加工を委ねていましたが、それ以前の搾油は、楔式搾油機や棒状式搾油機などを用い人力で行われていました。

二戸地方では、藩政時代から漆の増殖、保護が図られていましたが、漆に携わる人々は、漆掻きと併せて、晩秋から初冬にかけて漆の実を集め、その皮に含まれる蠟を楔式搾油機で搾り、漆蠟として県外の業者と商取引をしていました。

今回の企画展では、強大な圧力をかけて油を搾る楔式搾油機などの道具とその作業工程、搾った油や蠟の活用方法について収蔵資料を紹介しながら、先人の技と知恵を学ぶ機会とします。

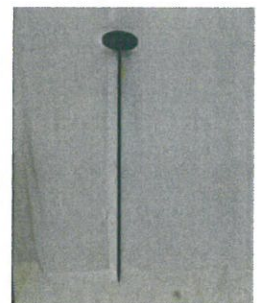
楔式搾油機



棒状式搾油機



灯台



岩手県立農業ふれあい公園

農業科学博物館

北上市飯豊 3-110 TEL:0197-68-3975

開館時間/9:00~16:30(入館は16:00まで)

休館日/月曜日(月曜日が祝日の場合は直後の平日)

入館料/一般300円 学生140円 高校生以下は無料

団体割引等(20名以上)があります

駐車場/大型バス12台 普通車240台 身障者専用5台